

そうしゅうおおやましんこうのていりゅう

#26 相州大山信仰の底流

作者：川島敏郎（かわしま・としろう 1947-）

刊行：平成28年（2016）



📖 解題

■ 内容

原始・古代から近現代までの大山の歴史を通観し、縁起絵巻・靈験譚・旅案内記・旅日記を読み解くことで大山信仰について掘り下げている。本書は、4つの編から構成されている。

第Ⅰ編「大山通史」では、史料に基づいた大山の歴史を時代別にまとめている。第三章の第一節には大正12年（1923）の関東大震災の大山の惨状が詳細に書かれている。

第Ⅱ編「大山論考」では、大山に関係した様々な事柄を取り上げている。第Ⅱ編の目次構成は、第一章「大山講の師檀関係」、第二章「古川柳からみた大山信仰」、第三章「伊勢原市内の大山道と石造大山二ノ鳥居」、第四章「戦禍を免れた大山小学校の『青い目の人形』」、第五章「大山関係資料の現存状態と展望」、第六章「大山門前町の歴史散歩」である。

第Ⅲ編「大山寺の縁起と靈験譚」では、平塚市博物館所蔵『大山寺縁起絵巻 上・下』と、養智院前住の心蔵著『大山不動靈験記』全15巻を紹介し、解説している。『大山寺縁起絵巻 上・下』は、縁起の全容が解るように、釈文、詳細な註、解説文を載せている。『大山不動靈験記』に関しては史料自体が膨大なため、本書に載っているのは大山寺のご利益体系の分析と解説のみであるが、神奈川県立図書館「神奈川県郷土資料アーカイブ」で、川島敏郎本人による釈文と解説の閲覧が可能である。



[K17.64/58]

第3章 思想・宗教

第IV編「江戸時代後期の庶民の物見遊山」では、旅案内記3点と旅日記3点を紹介し、大山とその周辺の景勝地（富士山・江の島・鎌倉・金沢八景）がどのように記述されているかを、釈文と註を加えて解説している。旅案内記は、華坊兵蔵著『相州大山参詣獨案内道の記』、猪股豊政著『相模國雨降山細見之扣』、玉餘道人著『相州大山順路之記』の3点である。旅日記は、坂本栄昌著『雨降山乃記』、作者不詳『富士・大山路中雜記 附、江之嶋・鎌倉』、矢野某著『大山より江之嶋・鎌倉・金沢日記』の3点である。いずれも従来の研究では取り上げられておらず、そのほとんどは活字化されていなかった史料である。

■ 作者

作者、川島敏郎は1947年静岡県に生まれる。早稲田大学大学院文学研究科博士課程日本史学専攻満期退学。神奈川県立高等学校教諭、神奈川県立公文書館郷土資料課専門員、産業能率大学客員研究員等を歴任。NPO法人神奈川歴史教育研究会理事長、伊勢原市文化財保護審議会委員を務める。神奈川県立高等学校に赴任時、伊勢原市の依頼で大山夏季講座に着手し、以後30年以上に渡って大山の研究を続けている。

参考文献

川島敏郎「古記録から見た大山信仰の諸相：『大山寺縁起絵巻』・『大山不動靈験記』を中心として」（『神奈川県立公文書館紀要』第6号 神奈川県立公文書館 2008）[K01/71/6]

『定本大山寺縁起絵巻 上・下』川島敏郎編著 旅めぐり証明発行基金会 2012 [K18.64/40]

川島敏郎「『大山不動靈験記』にみる庶民と信仰：縁起が語られ、広まるわけ」（『あつぎ縁起書の世界：神さま仏さまのプロフィール』厚木市郷土資料館編 厚木市教育委員会 2012）[K17.92/15]

『大山不動靈験記』心蔵著 [K18.64/4/1-8]

※神奈川県立図書館「神奈川県郷土資料アーカイブ」川島敏郎 釈文・解説 2016 『大山詣り』川島敏郎著 有隣堂 2017 [K17.64/61] [163.1/143]